

2020年2月28日

学校関係者評価報告書

2019年度

群馬パース大学福祉専門学校
(学校関係者評価委員会)

※ この報告書は、「自己評価報告書」に学校関係者
評価委員会の評価を追記してまとめたものである。

1 学校の現況 (2019年4月1日現在)

(1) 施設の概要

- ア 名称 群馬パース大学福祉専門学校
イ 所在地 〒377-0008 群馬県渋川市渋川 1338-4
ウ 設置者 名称 学校法人群馬パース学園
代表者 理事長 樋口 建介
所在地 群馬県渋川市渋川 1338-4
開設日 平成4年4月1日

エ 教職員数

校長以下 21 人

オ 開設学科 3 学科

- ・ 介護福祉学科 2年制 定員 50 人 (1 学年)
- ・ 保育学科 2年制 定員 50 人 (1 学年)
- ・ 介護福祉専攻科 1年制 定員 30 人

カ 在籍学生数 (2019年4月1日現在)

	1 年	2 年	合計
介護福祉学科	47	29	76
保育学科	33	12	45
介護福祉専攻科	4		4
合計	84	41	125

キ 沿革

- ・ 平成 04 年 03 月 ほたか保健福祉専門学校設置認可(群馬県)
- ・ 平成 19 年 04 月 群馬パース福祉専門学校に校名変更
- ・ 平成 22 年 04 月 キャンパスを群馬県吾妻郡高山村に移転
- ・ 平成 26 年 04 月 群馬パース大学福祉専門学校に校名変更
- ・ 平成 29 年 04 月 キャンパスを群馬県渋川市渋川に移転

(2) 建学の精神

P a z は、平和を意味するポルトガル語、パース (P a z) に由来します。

また、同時に P a z にはこの 3 文字を頭文字とする「P e s s o a (個性～個性の尊厳と自己の実現)」「A s s i s t e n c i a (互助～多様な人々の共存と協調)」「Z e l o (熱意～知の創造)」の意味が与えられています。

(3) 教育の目的

学生一人一人が保育士や幼稚園教諭、介護福祉士として必要な専門的知識や技能を身につけるとともに、教養の向上を図り、広く社会に貢献できる人材を育成する。

(4) 教育の方針

- 「明朗で協調性のある人づくり」
- 「質素で誠実な生き方を求める人づくり」
- 「講義や実習に真剣に取り組む人づくり」
- 「人間愛に富んだ強い意志をもって行動できる人づくり」
- 「見識を高め未来を拓くことのできる人づくり」

2 重点的に取り組むことが必要な目標

(1) 現場に強い次世代介護福祉士の育成

平成 23 年に介護福祉士法等が一部改正され、介護福祉士がその業務として「医療的ケア」を行うことが可能になった。現在、在宅においても施設においても、介護の場では日々、医療的な依存度の高い人、つまり何らかの「医療的ケア」を必要とする人が増えている。そうしたことから、本校では介護職の本来の役割である「生活支援」と「身体介護」に加えて、新たなニーズとしての「医療的ケア」にも対応ができるような「現場に強い次世代」の介護福祉士の養成を目指す。

(2) 保育の「プロフェッショナル」に必要な知識と技術を身につけた保育者の育成

乳幼児教育や子育て支援についての学習を通じて、人間の原点である「子どもの世界」を知り、「子どもの発達を支える知識」「子どもと共に遊びを創り出す力」「子どもに豊かな文化を伝える技術力」「子どもと心を通わせる温かな人間性」の 4 つの資質・能力を備えた保育者の養成を目指す。

(3) 渋川市子育て支援総合センター等と連携事業の充実 ～ 地域貢献（保育学科）

本校では、渋川市と連携し、共催で子育て支援事業である「遊びの広場『おひさま』」をキャンパスに隣接する「子育て支援総合センター（渋川市）」で行っている。さらに、演習を中心とした教科目で学習した子育ての支援に関わる内容を、渋川市子育て支援総合センターの親子で集う場で実践している。このような活動を通して地域貢献、社会貢献に積極的に努めていく。

(4) 教育内容の充実と工夫による、資格取得率 100%及び就職率 100%の達成

国家資格の取得は勿論のこと、学生が自信と誇りを持って自分の目指した仕事に就けるようにするために、教育内容の充実・工夫と個々の理解度や進度を確認しながら徹底した個別指導に努めていく。

(5) 地域の社会福祉事業への寄与

本校では、附帯事業として「喀痰吸引等研修」及び「介護福祉士実務者研修」等を実施している。特に、「喀痰吸引等研修」については、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する資格を有しない現任の介護福祉士を対象として医療的ケアに関する教育を実施することにより、その資格取得を支援するなど、地域の社会福祉の向上に寄与しようとするものである。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
	学校の理念・目的・育成人材像は定められている (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱 いているか	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想な どが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応す る業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 建学の精神、教育目的、教育方針については、1「学校の現況」に記載のとおり。
- ・ 学校の理念、目的のもとに「介護の現場」「保育の現場」で今、求められているニーズを踏まえ、また、将来求められるであろうことを考慮しつつ、時代に合った教育の実施に努めている。

また、学生からの個別のニーズにも細やかに対応できるように日常的に教育的な関わりを大切にしており、学生がより効果的に、より安心して学びを深めることができるように努めている。

② 課題と改善方策

- ・ 保育学科設立3年目を迎え、1期生を送り出した今年度、改めて教育目標や教育方針、教育課程を評価・再構築し、教育面の一層の充実を図っていく必要がある。そして、今後、実践力を持つ保育者を育てていくためには、実践力の具体的な姿(資質・能力)を明確にし、その姿を目指してどのような教育を行っていかなければならないのかを全ての教職員が共通理解し、取り組むための「専門士授与方針(ディプロマ・ポリシー)」及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」を定めるとともに、入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)の見直しを図るなど、一体的に取り組んでいきたい。
- ・ 「学校の理念等が学生・保護者等に周知されているか」について、多くの留学生の場合、その保護者に正しく伝えられているとは考えていない。しかし、今後も、留学生本人から機会あるごとに保護者等へ伝えられるように努めていきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 教育目標や教育方針、教育課程を評価・再構築し、教育面の一層の充実を図っていくためにその見直しに取り組んでいることは、常に現状に甘んずることなく、学生に最良の教育を提供しようとする姿勢の現れであり、評価できる。新年度以降も継続的な取り組みを実施し、しっかりと検討していただきたい。
- ・ 留学生の保護者等に学校の理念・目的・育成人材像等を伝えていくことは、容易なことではないと推察できるが、引き続き、努力していただきたい。
 なお、留学生については、特に保証人との連絡・連携を考慮することが求められる。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1	
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	②	1	
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 学校の「建学の精神」、「教育目標」、「教育方針」等については、明文化し、教職員の共通認識となっている。また、定期的で開催している「教務委員会」及び各学科会議等において、建学の精神、教育目標・方針等に沿った校務運営に配慮している。特に、教務委員会(月 1 回開催)では、全教員で学生状況等をはじめとした教育にかかわる事項と共に運営にかかわる事項についても報告・協議等がなされており、

教員の共通理解に努めている。

- ・ 学生の学籍、出席、成績等については、システム化して管理しており、業務の効率化が図られるとともに、個人情報の管理(漏えい防止)に努めている。
- ・ 本校では、ホームページやパンフレットを活用して、教育活動等について積極的な情報発信に努めている。

② 課題と改善方策

- ・ 11月、新設した学校関係者評価委員会に「自己評価結果」を報告するなどして、新年度6月までに「学校関係者評価結果」を学校のホームページを通じて部外に公開する予定である。
- ・ 教職員の役割分担が不明瞭な業務等があることから、今後、学校の組織としての在り方や、業務の在り方等を見直すなど、それぞれの職務内容、責任の明確化を図り、多様な専門性を持つ教職員が一体となってチームとしての学校運営ができるように検討していきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 教育活動等に関する情報公開については、6月末までに「学校関係者評価結果」を学校ホームページに公開する予定とのことであるが、速やかな公表に努められたい。
- ・ 留学生の入学(増加)等により、教員と事務職員の役割や職務分担が不明瞭な業務については、業務の在り方等の見直しを早急に実施されたい。

なお、見直しに当たっては、業務に間隙を生じさせることがないように職員間に協働の意識を向上させることが重要であり、配意されたい。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
	④	3	2	1	
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	

関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	①	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	①	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 本校は、姉妹校である群馬パース大学と教育連携の強化を図り、大学の専門講師から受講できるようカリキュラムを組んでいる。
 - ・ 本校では、グループ内の病院や介護施設等との連携による「即戦力教育」、「現場と密着した介護教育」の実践に努めている。
 - ・ 近年、医療依存度の高い人、医療的ケアが必要な人が増えている。こうしたことを踏まえ、本校の介護福祉学科・介護福祉専攻科では、医療的ケアの実施研修等の充実を図り、「特定行為業務従事者」認定証の取得を目指している。
- ※ 本校独自の取組みとして、厚生労働省基準の 50 時間を約 3 倍上回る時間を確保して、医療的ケア授業の充実に努めている。
- ・ 保育学科は、渋川市子育て支援総合センターと共同で行う子育て支援事業「遊び

の広場『おひさま』の企画運営を行い、実践的な授業（演習）に取り組んでいる。
※ 「おひさま」は、保育学科の2年生が中心となり、各科目で学習習得した知識や技能を発揮し、グループで創意工夫・協同して企画運営している。また、その学習成果は、科目「保育教職実践演習」においてまとめ校内で発表するとともに、学校代表が全国保育士養成協議会関東ブロック協議会主催の学生研究発表会において発表している。

- ・ 保育学科は、渋川市子育て支援総合センターにて、科目「自然と食」でのサツマイモの栽培収穫、「音楽表現」での音楽遊び、「造形表現」での造形遊び、「保育の英語」でのクリスマス会の実践を、センターを利用する親子を対象に行っている。
- ・ また、保育現場で子育て支援ができるようになるために、渋川市子育て支援総合センター職員、しぶかわファミリーサポートセンター職員から支援のあり方の指導を受けるとともに、遊びの広場「おひさま」や子育て支援総合センターでの休日ボランティアの体験を通して、支援の実際を学ぶ機会も設けている。
- ・ 保育学科は、指定科目にプラスした独自科目として「実践演習こどもの医療」「療育支援論」の科目を置いており、医療知識を持った保育者養成に力を入れている。
- ・ 学生の成績評価、進級及び卒業は、各学科会議及び教務委員会の議を経て校長が最終判断、認定を行っている。
- ・ 教職員に対しては、当該教職員のスキルアップを図るために部外研修への積極的な参加を奨励している。また、適宜、校長、副校長及び学科主任が教員の授業観察を行い、改善すべき点がある場合には、教員に直ちにフィードバックし、教員のスキルアップにつなげている。

② 課題と改善方策

- ・ 授業評価については、学生アンケートを実施しているものの、校長・副校長等による評価は未実施であることから、新年度の実施に向けて検討中である。
- ・ 介護福祉学科のカリキュラム変更（認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化等に対応する介護福祉士を養成するため）については、2021年度からの導入に向けた準備を進めている。

今年度については、先行的に「特別講座（介護インクルージョン）」を設けて、日本人学生と留学生が互いの文化や伝統・習慣等を学び、相互の理解を深め合う授業を行っている。

- ・ 本校には高卒後すぐに専門学校に進学した学生その他、社会人入学生、委託訓練生が在籍している。また、入学前に学童保育や福祉の現場で職に就いていた学生もあり、学生のバックグラウンド、年齢、能力等の幅が広い。個々の学生の理解力、意欲、社会性、経験値に大きな差が存在する。今後、能力に応じた学習をどのように進めていくのか、研究・検討を進めていく必要がある。

- ・ 保育学科では、幼稚園免許状取得のための小田原短期大学との教育連携において、本校での学修に加えて通信教育で単位取得している。個人差もあることから負担を感じている学生がいるため配慮が必要である。今後、どのような支援・配慮が必要か研究していきたい。
- ・ 留学生の実習受け入れに対して、一部施設では、十分な理解が得られていないことから、今後、一層丁寧な説明を尽くし、理解を求めていきたい。
- ・ 6月、コミュニケーション型の介護用ロボット「パルロ」1台を導入(新規)し、介護福祉学科及び介護福祉専攻科生の授業で紹介しているものの、十分に活用しているとまでは言い難ことから、今後、一層の活用方策を検討していきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 授業評価等に関しては、学生アンケートを実施しているものの、その活用状況が確認できなかった。また、個別の授業評価も明確になされていないようであり、速やかな是正・実施に努められたい。
- ・ その他の課題については、問題意識を持って研究・検討を進めて改善に努めていただきたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
	④	3	2	1	
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 平成 31 年 3 月、介護福祉学科及び保育学科の卒業生については、就職を希望する学生は全員が就職をしている。就職率は、100%である。
- ・ 介護福祉学科では、年 4 回、国家試験対策として模擬試験（学内・全国模試）を実施するなど、学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。

※ 保育士資格及び幼稚園教諭 2 種免許状は、本校の卒業時に付与される。

- 2019 年度 12 月末までの退学・除籍者は、8 人（介護福祉学科 1 年 5 人、2 年 1 人、保育学科 1 年 2 人）である。
- 在校生の実習における巡回指導の際、同施設に勤務する卒業生の動静、評価の把握等に努め、必要に応じて助言・指導を行っている。また、同窓会(事務局は校内)活動を通じて卒業生の社会的な活躍及び評価などの把握にも努めている。
- 保育学科のおひさまの企画実践では、回を重ねるごとに、遊びの環境の創り方、子どもへのかかわり方、子どもの心をつかむ手遊びや読み聞かせ・劇の実演の手法等が上達し、保育現場に立てる力をつけてきている。さらに、考えや思いの違い等グループ内での葛藤があっても協議を重ね乗り越えやり遂げる経験を積み重ねてきている。
- 保育学科では、実習（保育・教育）により、現場での実践を通じて、保育所や施設・幼稚園の役割や機能、保育者の職務内容・支援方法、子ども理解等を深めている。実習後、個々の学生が学習効果を振り返り、まとめ、クラスで発表し互いの実習体験を共有することにより学びを深めることができている。
- 保育学科では 1・2 年生合同のポスター発表やグループディスカッションの授業も行っている。2 年生は、実習での学習成果をポスターにまとめあげる力や、自分の体験を先輩に伝える力も身につけることができている。1 年生も参加することで学生相互により具体的に学びあえている。

② 課題と改善方策

- 保育学科では、能力差のある学生へどのように対応していくかが課題となっている。特に、実習においてその課題が顕在化する傾向がある。現状では、実習中、課題の多かった学生に対しては、補完学習を行うなどして指導を行っている。
- 介護福祉士の国家資格については、2020 年度の入学生を最後に特例措置が終了する予定であることから、国家試験受験対策の準備(強化)を図っていく必要があると考えている。
- 介護福祉学科の実習においては、渋川市をはじめ北毛地区、前橋市及び高崎市の介護施設を中心に実習先として学生の受け入れを依頼している。しかし、運転免許証を有していない学生もいることから、実習先の施設までの送迎を行っている。今後とも、学生が多様な実習を経験できるように、実習先と調整していきたい。
- 進路変更や帰国等の理由で退学や除籍された者の約 8 割を留学生在が占めていることから、これまで以上に「留学生向けの学校説明会」、「オープンキャンパス」及び「面接試験における確認（チェック）」などをしっかり実施して、学校選択等のミスマッチの低減に努めていく必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 少数ではあるが、留学生に退学・除籍者が出ていることから、改善方策に記載のとおり、学校選択でミスマッチが起きることのないように「学校説明会」「面接試験」等の機会を有効に活用し、適切な対応を図っていただきたい。特に、留学生が進路変更する場合は、本人の負担が大きいと思われるので、十分に配慮されたい。
- ・ その他の課題については、自己評価報告書に記載のとおり、問題意識を持って改善に努めていただきたい。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
	4	③	2	1	
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動(ボランティア等)に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか等	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 本校では、毎月実施する各学科会議及び教務委員会において、担任教員から個別に学生状況が報告され、教職員の情報共有を図り、個々の理解度や健康状態等を確認しながら、丁寧で親身な教育の実践に努めている。
- ・ 課題のある学生（出席状況、成績、健康・体調等）については、適宜、保護者と連絡を取り、その是正・改善を促すなど、適切な対応に努めている。
- ・ 急務である介護福祉士及び保育者の養成については、国、県、各種団体等による修学支援制度が多数整備されていることから、奨学金を必要とする学生に対しては、各種支援制度を案内し、その申請手続きなどの支援を行っている。
- ・ 授業は、基本週 4 日制（火曜日から金曜日。土・日・祝日と月曜日は休み）として、学生が勉強とプライベートを両立しやすい環境を整えている。
- ・ 毎年 4 月、全学生及び教職員を対象とした定期健康診断（法定）を学校行事として実施している。また、10 月、定期健康診断後の学生の健康管理に取り組むための「健康管理チャート(学生用)」を新たに作成し、教職員で情報を共有している。
- ・ 留学生が罹患した場合、病院や診療科の選定に苦慮、困惑しているケースもあるため、専任教員及び養護教諭が常に健康状態の把握に努め、適切な指導・助言を行っている。
- ・ 本校では、平成 26 年に介護関係の 15 施設(現在 35 施設)と「介護連携協議会」を設立し、学生の就職支援等に努めている。本年度は、7 月に同協議会に参加している施設を招致しての就職説明会を実施している（会議は、年 3～4 回開催）。
- ・ 保育学科では、科目「保育キャリアデザイン」を核として進路・就職支援を実施している。そこでは、個別面談、履歴書作成指導、小論文指導、模擬面接、卒業生による講話、適性検査対策等を行っている。また、「保育キャリアデザイン」以外でも、日常的に、担任が中心となり、保育学科の教員全員が学生の就職相談や就職支援にきめ細やかに対応している。
また、卒業生のアフターケアとして、7 月に就職した卒業生の勤務先に保育学科教員が訪問し、施設長に挨拶し話を伺うとともに、卒業生とも面談させてもらい、就労状況と職場適応について把握している。
- ・ 保育学科では、学生相談については、年度当初に専任教員による個別面談などを行い、教員間で情報共有し、安定した学生生活が送れるよう支援している。既往歴のある学生、何らかの健康上の配慮を要する学生については、養護教諭との連携の下、対応に当たっている。その際に、教員と養護教諭で役割分担し、それぞれの立場から学生にアプローチするようにしている。
- ・ 1 月、新しい学生寮（10 室）が完成し、学生の居住環境の改善に努めている。
- ・ 校内掲示板に「学生に読んでほしいニュース」を掲示し、社会的に関心の高いニュースやトピックスなどを学生に紹介し、常識の涵養に努めている。

② 課題と改善方策

- 本校では、学生相談の体制が脆弱で、相談窓口も一部に不明瞭なところがある。学生の多種多様な悩みに対して、現在は、主にクラス担任が対応しているが、担任の負担が大きくなり過ぎていることから、学生相談体制の充実を図る必要がある。今後、相談内容による窓口や担当者の明確化、相談ルート、保護者を招致する基準、養護教諭の役割の明確化、校内での連携なども考慮して、再構築していきたい。
- 保育学科の進路・就職支援については、「保育キャリアデザイン」担当教官と2年の担任が中心となって対応しているが、学校としての就職支援の一層の充実を図る必要があることから、現行体制の見直しを図るなど、検討をしていきたい。
- 保育学科では、昨年度初めての卒業生を送り出したところであるが、現在のところ、県内の保育園・幼稚園・認定こども園、児童福祉施設等での本校の認知度はまだ高くない。今後は、保育現場とのつながりを強固にしていくことと、卒業生が増えていき、現場で活躍することで学校に対する信頼感と関係性を深めていく必要がある。
- 介護福祉専攻科への進学希望者がいない（少ない）ことが課題である。今後は、将来的なキャリア形成を見据えて、学生の進路選択の中に専攻科進学を意識付ける取り組みも望まれる。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- 学校にとって、学生からの相談への対応や就職支援活動は、重要事項の一つであることから、一部の教職員に依存することなく、学校組織全体で誤りのない対応が取れるように早急な体制整備・充実を図られたい。
- 保育学科及び介護福祉専攻科の認知度が低いという現状を打開すべく、保育・介護現場とのつながりをより強固なものとしていく中で、認知度アップの一層の取り組み強化に努められたい。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
	4	③	2	1	
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか		③	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 平成 29 年 4 月、J R 渋川駅から徒歩 5 分の好立地にキャンパスを移転(高山キャンパスから移転)し、新キャンパスには、講義室、演習室、音楽室、図書室、就職相談室など学びにふさわしい施設が完備されている。
- ・ 4 月、教職員の退職・異動等に伴う新年度の「防災体制」を確認するとともに、渋川市消防本部の指導の下、学生及び教職員を対象とした防災訓練を実施している。
- ・ 12 月、渋川市消防本部の協力を得て、「地震体験車」等を使った災害対処訓練を実施している。特に、あまり地震が発生しない国からの留学生もいることから、極めて意義のある訓練であった。
- ・ 学校と実習施設との関係は良好で、学生の指導に関する連携も図られている。海外研修については、実施していない。

② 課題と改善方策

- ・ 本校には、体育館及び運動場がないことから、群馬パース大学の体育館(高崎市内)を使用している。このため、学校と大学体育館の移動については、希望者に対して学園バスの運行を実施している。
- ・ 12 月、新たに各種の運動用具を揃えたトレーニング用のジムコーナー(スペース)を校内に設置した。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 学生から「身体を動かしたい」「スポーツをしたい」等との要望を受けて、校内にトレーニング用の器材を順次、整備していることは評価できる。今後も計画的な整備・充実に努められたい。

(7) 学生の受入募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
	④	3	2	1	
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 今年度は、期間中 8 回のオープンキャンパスを実施し、その参加者は、のべ 99 人(介護 49 人、保育 50 人)であった。

- ・ 期間中、各種広報媒体（インターネット、新聞広告、FMラジオ等）を活用した広報・募集活動を積極的に実施している。特に、8月、学校のホームページをスマートフォン対応としたものに改修し、オープンキャンパス等の告知に使用している。
- ・ 8月、群馬県私立幼稚園・認定こども園協会等と連携し、高校生1~2年生を対象とした「保育体験バスツアー」を実施し、高校生に対して体験授業及び施設見学会を行っている。(新規)。 ※ 参加者8人
参加者の声~「渋川に保育士を養成する専門学校があるとは知らなかった。」
- ・ 11月、群馬県社会福祉協議会と連携し、日本語学校の外国人留学生を対象とした「介護体験バスツアー」を実施。留学生に対して体験授業及び施設見学会を行っている。(新規)。 ※ 参加者7人
- ・ 本校の授業料は、演習費・施設設備費等を含んだ金額で明示し、学生及び保護者に分かりやすいものとしている。また、本学園は財務基盤が安定していることや、無駄な経費の縮減等に努めていることから、本校の学納金は、他校と比較しても比較的、低額な設定になっている。
- ・ 保育学科では、入学前指導を実施し、入学後の学生生活の不安や疑問に答えている。特に、ピアノの技術力を高めるために個々の学生に特別レッスンをを行い、入学後の授業に繋げている。

② 課題と改善方策

- ・ 学校の教育方針等の理解を深めて入学してもらうために、専門士授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をホームページやパンフレットに明記する。特に、入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、入学希望者が十分に理解できる内容と表現に見直し、明記する必要がある。さらに、入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をもとに選考基準を定めるなど、検討していきたい。
- ・ 6月、高等学校及び日本語学校の教職員向け説明会を実施したが、参加者が2名と低調であった。本企画は、本校と「介護職」や「保育職」に対する教職員の理解を深めてもらうために重要であることから、一層、創意工夫に努め、高校への働き掛け、参加者の増加に努めていきたい。

※12月、本校を訪れた渋川工業高等学校の教職員16名に学校説明・見学会を実施

③ 特記事項

- ・ 6月16日付けの上毛新聞に、当校で行われたオープンキャンパスの様子が掲載されている。

④ 学校関係者評価委員会による評価

- 学生募集活動に関しては、創意工夫して実施していることがうかがえるものの、結果として、保育学科及び介護福祉専攻科の学生募集が低調であることから、引き続き、積極的な募集活動に努められたい。
 なお、地味ではあるが、自治体の広報紙等の活用も検討してはどうか。
- 留学生が多いことを考慮して、学校のホームページには少し趣向を凝らした内容を盛り込む等の工夫が必要であろう。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

※ 既に、「群馬パース学園」として財務状況については公表している。

なお、「群馬パース学園」には、群馬パース大学と群馬パース大学福祉専門学校がある。

○ 学校関係者評価委員会による評価

- 学校法人の財務状況は、良好と認められる。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	①	

自己評価結果を公開しているか		4	3	2	①

① 現 状

- ・ 学生及び教職員の個人情報に関する情報漏えい事故等は発生していないが、今後とも、「個人情報保護に関する規程」等に則り、その適正管理に努めている。
- ・ 11月、新設した学校関係者評価委員会に「自己評価結果」を報告するなどして、新年度6月までに「学校関係者評価結果」を学校のホームページを通じて部外に公開する予定である。

② 課題の改善方策

- ・ 今後、学校関係者評価委員会により指摘された事項等については、その速やかな是正に努めていきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 留学生の管理について、東京出入局在留管理局から「適正校」に選定されていることについては、高く評価できる。引き続き、適正な管理に努められたい。
- ・ 自己評価報告書を公表していないことは、問題である。学校教育法等の規定に基づき、早急に公表することを求めたい。その他については、特別の問題は認められない。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 毎月1回(月末)、学校行事として実施している環境美化活動では、学校内の清掃のみならず、学校周辺の道路清掃も行っている。また、渋川市の依頼を受けて、学生が「まつり」や「防災訓練」等に一般ボランティアとして参加しているほか、社会

福祉法人・医療法人等が行っている諸行事・活動にもボランティア参加している。

※ 学生がボランティア参加した主な行事等

- ・ 4月 白井宿八重桜まつり 主催 渋川市
 - ・ 9月 シリウス納涼祭 主催 社会福祉法人「惺星会」
 - ・ 11月 秋桜祭(文化祭) 主催 社会福祉法人「恵の園」
 - ・ 11月 多世代交流「すこやかひろば」 主催 渋川市
 - ・ 本校では、小学校、中学校、高等学校に出向き、児童・生徒に「介護」を正しく理解していただくための「介護福祉出張教室」を行っている。
 - ・ 2019年度実施校 11月15日(金) 渋川市立古巻中学校 3年生
 - ・ 5月、渋川警察署からの依頼を受けて、介護福祉学科2年生が「春の全国交通安全運動」に参加し、他のボランティア団体とともに渋川市内で「交通安全」のための広報啓発活動に従事した。
 - ・ 10月、認知症の啓発活動のために実施されている「RUN伴ぐんま」(主催～NPO法人、後援～群馬県等)に介護福祉学科の学生42人が参加した。
 - ・ 11月、利根沼田地区学校警察連絡協議会等が青少年の健全育成のために主催する「第61回利根沼田少年柔道剣道大会(会場：利根商業高校)」の大会運営に協賛し、後援した。(新規)
 - ・ 12月、渋川警察署の依頼を受けて、保育学科2年生が「県民防犯の日」の活動に参加し、他のボランティア団体とともに渋川市内で「防犯」のための広報啓発活動に従事した。
 - ・ 2月、群馬パース大学と連携し、公開講座「発達がいの療育～地域で一緒に楽しく育つ～」を本校で実施した。
 - ・ 今年度は、ハローワークからの依頼を受けて23人の委託訓練生(県公共職業訓練)を受け入れている。
- ※ 介護福祉学科11人(1年5人、2年6人)、保育学科12人(1年8人、2年4人)
- ・ 介護福祉士の資格を有する職員1名を「群馬県災害派遣福祉チーム」に登録し、有事に備えた対応を図っている。
 - ・ 群馬県教育委員会と連携して、福祉系高校の教員に対する医療的ケアの指導等を担当している。また、渋川青翠高校の依頼を受けて同校が行う初任者研修等へ職員を講師として派遣している。
 - ・ 校内では、毎週2回(火・金曜日)「はるなベーカリー」(社会福祉法人はるな郷)のパン販売が行われているが、こうした就労支援事業所等の活動に協力している。
 - ・ 学校車両には、「防犯パトロール中」のステッカーを貼付し、防犯活動に協力するとともに安全運転、交通事故防止に努めている。
 - ・ 施設内にエコキャップ回収ボックスが設置され、同運動に協力している。
 - ・ 渋川市の依頼を受けて「子ども安全協力の家」(子どもが身の危険を感じたときや

急病などで助けを求めたいときに保護や世話をするところ)として子供の安全安心の確保活動に協力している。

- ・ 夏季及び冬季の期間、全校をあげて校内の節電に取り組んでいる。

② 課題と改善方策

今後とも、積極的に社会貢献・地域貢献活動に取り組んでいきたい。

③ 特記事項

- ・ 平成31年6月13日付けの上毛新聞で「環境美化活動」の様子が紹介されている。
- ・ 令和元年7月11日付けで渋川警察署長から「春の全国交通安全運動」への協力に対して感謝状が授与されている。 ※ 「感謝状」は学内掲示
- ・ 令和2年1月14日付けで沼田警察署長から青少年健全育成活動への支援をはじめ、防犯活動等に対して感謝状が授与されている。 ※ 「感謝状」は学内掲示

④ 学校関係者評価委員会による評価

- ・ 多岐にわたり、社会貢献活動・地域貢献活動に取り組んでおり、高く評価できる。今後とも、積極的な活動・取り組みに努められたい。
- ・ 当校は北毛地域の拠点校であることから、地域（含施設で働く職員等）の要望を踏まえて、附帯事業として実施している「喀痰吸引等研修」をはじめとした各種研修が一層の充実を図れるよう検討願いたい。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1				
	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	

① 現 状

- ・ 本年度で留学生の受入れは3年目を迎えるが、介護福祉学科については一定程度の留学生を確保するために、県内の日本語学校（複数校）に赴き、本学校と介護業務に対する理解を深めてもらう（ミスマッチを防ぐ）ための説明会を実施している。また、留学生の受入れに当たっては、日本語能力だけでなく、出席率、人物、学習

に取組む姿勢等を総合的に判断した入試選考を行っている。

※ 留学生の入学生数

平成 29 年度 16 人 平成 30 年度 20 人 平成 31 年度 33 人

- ・ 10 月、留学生の在籍管理に関しては、新たに「国民健康保険への加入状況の確認」を加えて、国民健康保険の未加入学生に対する指導の強化を図っている。
- ・ 留学生が退学・除籍した場合、法令の規定に基づき、東京出入国在留管理局に対して遅滞なく報告している。

なお、10 月 29 日付けで東京出入国在留管理局から、留学生の在留管理に特段の問題がないと認められることから「適正校」に選定した旨の通知を受けている。

- ・ 今年度から、留学生に対する学習・生活及び日本語指導については、介護福祉学科の教員のみならず、専任教員(1 人)を配置し、きめ細やかな指導に努めている。
- ・ 2020 東京オリンピック・パラリンピックにおいて、渋川市は、モーリタニアのホストタウンとなっているが、渋川市と同国大使館の事務連絡に際して、本校学生が渋川市の依頼を受けて翻訳業務の補助を行っている。

② 課題と改善方策

- ・ 留学生については、日本語学校を卒業後、本校に入学しているが、個人差があることや、専門用語については理解が十分でない学生もいることから、今後とも、専任教員を中心にしっかりとしたフォローをしていきたい。

③ 特記事項

- ・ 当校では、外国人留学生の受け入れを始めるに当たり、「群馬パース大学福祉専門学校外国人留学生規程」(平成 27 年 4 月 1 日施行)を設定し、必要な事項を定めている。

学校関係者評価委員会 委員名簿

役 職	氏 名	所 属	備 考
委員長	塩崎 猛雄	専門学校非常勤講師、元高等学校長、元短期大学教授、	教育に関し知見を有する者
副委員長	笛木 陽介	(株)ヴィラージュ ヴィラージュ尾瀬 介護課長	関連業界等関係者（介護）
委員	長塩 香子	渋川市立渋川幼稚園 園長	関連業界等関係者（保育）
委員	河田 功一	社会福祉法人永光会 特別養護老人ホーム永光荘事務長	関連業界等関係者（介護）
委員	飯塚 翔	医療法人社団ほたか会 ほたか病院 介護主任	卒業生（同窓会会長）